

学校法人 岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成 26 年度 学校関係者評価委員会における報告及び指摘事項等

日 時	平成 26 年 5 月 16 日 16:30～17:45
会 場	横浜リハビリテーション専門学校 604 教室
出席者	横浜市立大学附属市民総合医療センター、東戸塚記念病院、介護老人保健施設アゼリア 学校長、副校長、理学療法学科長、作業療法学科長、ほか教職員 7 名

意見・指摘事項

<国家試験・卒業試験について>

国家試験・卒業試験の自己評価表の評定で、色々と換算されて評定 3 となっているが、今回の国家試験の結果を見ると OT 学科はいい結果だと思うが、この評定を 4 にすることはできないか。逆に言うと一定の成果を出したのでスタンダードに評価をしていいのではないかと思うが、何かその評定にした理由はあるか。

→全国平均からみていい結果だと思う。OT 学科については卒業試験において卒業延期となった学生は少なく、国家試験の結果も出せたことは非常に良かったと思うが、今後の課題としては特別講義や教育としての我々の関わりがいかに関国家試験の合格率につながっているのかということを確認に数字としてあげたいと考えている。

<コミュニケーション概論の授業について>

新カリキュラムからコミュニケーション概論の授業があるが、臨床実習だけでなく実際の臨床現場でも大きな問題となるのはこの能力である。このコミュニケーション能力の向上は非常に難しいと感じるが、この授業はどのような内容なのか。

→読む・話す・書く・聞くことを中心に起立・礼などのお辞儀の仕方から始まり、接遇・身だしなみ・気づきについて具体的に指導されている。特にこの気づきが重要で、例えば黒板が汚れていても学生は気づけずそのままになっていることがある。このような時に、講師が「これでは授業される方は非常に不快に思いますよね」と言語化し、どうすればよかったのか、どう対応したらいいのかを具体的に伝え、学生みんなで実践してみるという授業である。外部講師により実際の場面で具体的に指導をしていた。

<就職内定率について>

年内に就職内定が決まっている学生が少ない印象である。自分が学生の時には年内に決まっている学生が多かったが、ずれ込んでいる理由は何か。年度末には全員が内定しているため、国家試験の対策の理由が大きいと思うが、1月以降の就職支援の方法はどのようなものか。

→実習が始まる前に就職ガイダンスを実施し、1年間の動きやどのような求人があるかということを知り、3月の時点で周知している。しかし、2期の実習の後、年初めに第1回目、1月末には第2回目の卒業試験を実施し、その結果不合格になる場合があり学生は危機感が強くなる。このため、教員や就職指導部が積極的に介入してもなかなか動けない学生が多いのが実情である。また、模試などの結果を受けて教員が就職活動を促しているにも関わらず動けない学生もおり、そのような学生に対しては全面的に教員が背中を押さないと年内の内定者数の増加は難しいのではないかと感じている。今の学生は自己決定ができず、教員がここの施設へ就職してはどうかと伝えればそのままそこに就職を決めてしまうケースも多くなっている。自主性の低下は懸念されるものの、ある程度学生の背中を押してやらなければならなかったと反省している。

<就職試験や労働条件について>

最近、残業代の支払いがなく年俸制の就職先が多いが、就職試験や労働条件については指導しているか。

→ネットワーク上や掲示板での掲示はされているが、細かい内容までは把握できず、基本給・労働状況などは求人票に書かれている通り案内している。できるだけ教員が知り得る情報や過去の学生の就職情報を集め、その情報を学生にインフォメーションしている。

→印象として学校を卒業して楽しい社会人生活という状況ではなく、夜遅くまで仕事をしているという現状があるのではないかと感じている。以前よりも労働条件が厳しくなっている印象があるため、法律に従った仕事をしていくような指導も必要ではないかと感じる。特に残業が多い場合、それは職場の体制なのか見極める必要がある。

→経営者側の考えもあるかと思うが、どこまでが残業でどこまでが自己研鑽なのかが医療の現場では常に判断が難しいと言われている。学生が就職先を選ぶ時は卒業後にどれだけ勉強ができる環境なのかということに優先順位の高い所に置いている。残業という意味ではなく、残ってきちんと勉強できる環境があることを1つの利点として考えており、そういった教育システムの状況を見ている学生が多いと思う。その他、雰囲気がいいかということも重要視している学生も多く、見学に伺った時

に職員が楽しそう、明るい雰囲気であったということを1つの基準にすることもあ
る。

<就職支援の指導について>

その施設へは行ってはいけないというところはあるのか？例えば残業が多い施設
など、避けるような指導はあるのか。

→どこまでが残業なのかという線引きが難しい所で、自分たちも1年目、2年目の時
にはかなり夜遅くまで翌日の準備や勉強などで残っていた記憶がある。それが続く
ことは問題であるが、就職してはいけないという指導はしていない。

<学生が望む就職先について>

当施設ではいわゆる業務終了後の勉強会、自己研鑽という名の半強制的な勉強会を極力減
らす方向で、自分で勉強する時間を増やそうとしている。新人勉強会にしても業務時間内に
終わるような仕組みづくりをし、17時30分以降は自分の時間として使える方が学習になる
のではないかと思い1年間取り組みをしてきた。しかし、学生が求める勉強ができる環境と
いうのとは少し違うのかという印象である。臨床にいる職員からすると縛られて勉強させら
れるのではなく、時間がもらえ、自分の興味のあること、必要なことを勉強することが学習
になるのではないかと思うが、学生からすると夜遅くまで強制的なのか強制ではないのかわか
らないが、新人勉強会として枠を決めてやった方が魅力的に映るのか。私たちの時にも勉強
会が週3～4回あり、実施時間は18時～21時までで、勉強会が終わった後、自分で資料を
まとめるという作業をした。就職して最初の3か月はよかったが、少しずつ辛くなって頭に入
っていなかった気がしたが、そのあたりはどうか。

→そこまで極端な場合は体調が心配であり個人的には勧められない。理由を伝え、そ
れでも学生が就職するのであれば本人の意思を尊重する。

<学生が望む卒後教育について>

いまだに夜遅くまでの勉強会をシステムとしてやっているところが多いが、そのような施設
は学生に人気があるような印象を受けるがどうか？

→学生自身は勉強について受け身の姿勢であると感じている。自分で勉強するとい
うよりは職場で勉強会をしてほしいと考える学生が多いという印象は確かにある。

<退学防止について>

現場では職員が退職する場合には監査が必要になってきており、退職に当たっては家庭

事情や本人のステップアップなどで退職する場合や、中には職場が合わなくて辞める人、先輩や上司の軽いパワハラで退職することもある。そのような場合には調査が入ることとなっており、これは大変重要なことである。学校においても退学者については、退学するに至った経過について情報を共有しているのか、面接のプロセスはどうであったかなどを調査することが必要ではないかと思う。そのあたりはどのようにしているか。

→2年前に1期生からの退学者情報を分析し、国家試験や卒業などにどのような影響があったかを集約し、情報を共有している。特に学習については早期から緻密に学力の底上げを図るために学習強化組を組織している。これは、新1年前期に実施するウェルカムテストや各教科の小テストの結果から学習についていけない学生にいち早く対応するための仕組みである。しかし、なかなか退学者が0人にならないのが現状である。

<カウセリングの利用について>

年間にカウセリングを利用する学生はどのくらいいるのか？

→年間15人ぐらいで高学年の実習前後などストレスが多い時期の学生がほとんどである。低学年の時は担任が情報を集め、学科会議などで情報を共有し、その後の授業への遅刻や欠席状況を踏まえ個別面談にて意向を確認し、担任だけでなく学科長も入り理由を明確化する。別の進路について考えている場合は止めないこともあるが、揺れ動いている学生には一度学校を休学して考える時間をとることを勧める場合もある。

欠席委員からの意見

<授業アンケートの実施について>

自由記載を求めていることに学校として授業改善への前向きに取り組む姿勢が現れていると思う。実際に学生が記載した意見も授業内容を評価する意見、建設的な意見が多く授業改善に役立つと同時に授業者の励みになる内容となっていると思う。

今後に向けてはアンケート結果をどのように活用したかをフィードバックすることが必要である。

<教員の指導力向上のための研修について>

高校では学力観の変化を受け、講義型の授業から生徒の主体的な学びを重視する授業スタイルへの転換が強く求められており、授業改善のための校内研修や校内での相互授業見学が盛んになりつつある。「教育力向上」のためには学校内で授業を気軽に見学できる環境づくりが大切だと思う。

高校の授業改善は「言語活動の充実」というキーワードのもと進められている。授業づくり

の目指す方向性を明確にすることが求められると思う。

<学生への指導、支援について>

資料の「臨床実習結果報告」、「国家試験結果」、「就職実績」の内容から学校全体で大変きめ細やかな指導をされていると思う。

以上

文責：机